

JA自己改革推進レポート（JA鳥取中央）2月号

1. Aコープ店舗が（株）Aコープ西日本へ経営移管！

近年、量販店やコンビニの出店により地域内での競争が激化しており、Aコープ店舗の経営基盤強化を図るため、2月1日にAコープ4店舗の経営をJAから株式会社Aコープ西日本へ移管した。Aコープ西日本は島根、岡山、広島、愛媛各県をエリアとしてAコープ64店舗やコンビニ等の経営実績を有しており、広域での一元仕入れやマーケティング分析、共通システム運用等による管理コストの低減を進め、安定した経営に努めている。サービス向上の一つとして、新ポイントカード「エピコカード」によるポイント贈呈、さらにエピコマネー（電子マネー）によるお買い上げでプラス1ポイント贈呈する。



2. 琴浦ブロッコリー生産部が販売金額4億円を達成！

2月4日JA鳥取中央琴浦ブロッコリー生産部は、設立以来初の目標金額4億円を突破した。設立時は80人が58haで栽培を開始、現在は72人で140haを栽培するなど著しく面積を伸ばしてきた。県の補助事業を活用し、氷詰め出荷に取り組むための製氷機の導入、各農家への予冷庫の導入など、機械化を進め品質の維持と作業効率を上げることで、農家一人ひとりの面積拡大につなげてきた。寺岡新部長は「若い力で積極的に市場や消費者にPRしていき、美味しいブロッコリーを届け、令和2年度の目標達成に向かって取り組んでいきたい」と意気込みを話す。



3. JA鳥取中央の「経営理念の実現をめざす職員像」を日々の業務で行動化！

JA鳥取中央は多様化する社会環境のなか、まわりから信頼され農業を軸にした「農協らしさ」を強みとして発揮できる職員を育てるため、新たな人材育成に取り組む。一人ひとりの日々の行動化に向け、3か月毎に各職場で具体的取組事項を定め全員が実行する。各職場での朝礼で新たに「経営理念」を唱和することに加え、個人での取り組み内容や実際の行動エピソード等を発表する。まず、第1四半期(2月～4月)は本所内で試行実施し、4月以降全体で取り組む。

